

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org



皆さん、明けましておめでとございます。平成二十九年、丁酉(ひのと)の年が始まりました。今年もかわら版を「愛顧」のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

一昨年、昨年と般若心経の意味を学んできたかわら版。今年には日常会話の中に浸透している仏教用語を知ること、仏教の教えを深く考えてみたいと思ひます。

いろいろ不満が出てくるのは、欲のなせる業(わざ)。「何かと不安になるのも、欲のなせる業。「あれが欲しい」「これが欲しい」と思ふ心が「あれがない」「これがない」「あれを失うかもしれない」「これを失うかもしれない」といふ不満や不安の気持ちを生み出します。

ご心経もそう論じてくれています。何ごとでも我慢、我慢。欲を抑えて、自分の気持ちを律する。そのためには我慢が一番。

実はこの「我慢」。それそのものが仏教用語です。「我慢の「我」は「自我」

の「我」。我慢の「慢」は「慢心」の「慢」。つまり「自我の慢心」を略して「我慢」なのです。

我慢するというのは、自分の気持ちを律している自分自身の姿、我慢している自分自身が「善」であるというような潜在意識を伴っています。

しかし、我慢そのものが「自我の慢心」から生まれてくるのですから、我慢の原因そのものも自分の欲から生み出されています。

嫌いな人、嫌なことに耐え、我慢している自分には可哀そう。そう考えがちですが、実は「嫌い」とか「嫌」という気持ちそのものが「自我の慢心」から生まれてきます。

そのことに気づくと「嫌い」「嫌」という気持ちそのものが和らぎ、そもそもの我慢する必要がなくなります。何しろ「自我の慢心」がなくなるのですから。

「嫌い」なもの、「嫌」なもの、無理矢理変えようとするのは「傲慢」。それを自分の気持ちを抑えて耐えるのが「我慢」。

「傲慢」と「我慢」は親戚なのかもしれませんね。何かにかたがたなることなく、広く穏やかな心で人や出来事や社会を見つめ、病気や苦勞も含めた全ての現実と向き合い、ありのまま受け入れること。そういう心の持ちようになると「傲慢」も「我慢」も縁遠くなりません。

「傲慢」は争いを招きま溜め、それに耐えられなくなる。病んだり、争いごとで発展します。

人間の執着や愚かさを戒め、少しでも平穏で争いごとの少ない社会にする。そのためには、一人ひとりが「傲慢」や「我慢」の本質に気づくことが肝要です。

難しいです。でも心に留めておきましょう。「自分だけ我慢している」などと考えること自体が「自我の慢心」。言わば「傲慢」というものです。

「かわら版」、今年もよろしくお願ひ致します。

※



かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ16年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学、中央大学大学院、藤田保健衛生大学医学部の客員教授も務めています。

好評発売中



弘法さんかわら版
弘法大師の生涯と覚王山

大法輪閣 (仏教書の老舗出版社) 営業部：電話 03-5466-1401

